石垣島土地公祭考察

邱　瑋琪

はじめに

石垣島の「土地公祭（とちこうさい）」は、台湾総督府により農業移民[1]として石垣島に派遣された台湾出身者が1936年から始めた台湾の神事である。毎年旧暦8月15日台湾の中秋節に合わせて執り行われる、台湾出身者が主催する民間信仰活動である。土地公祭に祀られているのは台湾の土地の神様「土地公」である。

台湾における宗教、信仰活動を紹介する台湾政府の情報システム「全國宗教資訊網（全国宗教情報システム）」の説明によると、土地公とは、

（原文）

土地公的起源一般理解皆是源於古代的社神，也就是土地之神。（中略）土地公雖然地位較低，仍有其配祀神，包括土地婆、虎爺等。（中略）虎爺是多位神祇的座騎，（中略）一般虎爺多陳設於廟中的神案下，又作壇下將軍。」

（訳文）

土地公の起源は、一般的には、いずれも古代由来で、いわゆる土地の神様であると理解されている。（中略）土地公は神格としてはやや低いとはいえ、お供に「土地婆（トﾃﾞｨﾎﾞｳ）[2]」と「虎爺（ﾎﾔｰ）[3]」などの神様が合祀されている。（中略）虎爺は多くの神様の乗り物の役を担っている。（中略）虎爺は普通「土地公廟（トﾃﾞｨｺﾞﾝﾋﾞｮｳ）[4]」の中に、土地公が鎮座したテーブルの下に祀られているため、「壇下将軍」とも呼ばれている。

石垣島の土地公祭に関する研究及び報道等について、これまで日本と台湾両国から数多く取り上げられているが、①中華圏のお祭り、②台湾と沖縄のお祭り文化の融合[5]、③華僑独自の文化、④台湾の土地公祭の内容と同じ[6]などというものであった。上記の視点からでも分かるように、それぞれお互いの矛盾点が多くみられる。

また、2019年10月15日付の沖縄タイムズプラスの報道によると、「沖縄のウチカビ[7]と似た風習もあり、台湾出身者や一般参加者らであの世のお金を焼いて台湾文化に触れた。舞台では多彩な音楽ステージが披露され、集まった人を楽しませていた。」と報道している。

石垣島土地公祭の先行研究及び報道内容によれば、八重山の観光、境域問題、または華僑のアイデンティティなどのテーマに触れる報告は多く見受けられる。一方、土地公祭の実態についての考察について、却って見当たらない。よって、本稿では石垣島の土地公祭に焦点を絞って考察することとした。

2019年石垣島土地公祭主催者の許可を得て、同郷の一台湾人として、土地公祭当日の準備から祭祀場所の撤収、「呷豬公肉（ｼﾞｬﾃﾞｨｺﾞﾝﾊﾞ）[8]」まで参加し、石垣島土地公祭の実態を再考察することに至った。

1．概要

石垣島土地公祭は、本来は旧暦8月15日の中秋の名月、つまり、台湾の中秋節に合わせて、土地公祭を執り行っていたが、近年、参加者の都合を考慮した上、中秋節直前の日曜日の昼11時から1時[9]まで行うようになった。石垣島西部の「名蔵御嶽[10]」に場所を借りて、土地公祭を執り行う。

現在の主催者は、琉球華僑総会八重山支部である。八重山諸島に住んでいる台湾系華僑[11]の方々、すなわち、戦前台湾中部地方から八重山に農業開墾隊として派遣された元台湾人及び彼らの家族が参加する年に一度の神事である。

本来ならば、土地公祭は現地の台湾系華僑の信仰活動にしか過ぎないが、近年、より多くの方に石垣島開墾に尽力してきた元台湾出身者のことを理解してもらうため、土地公祭を開催する前に、地元新聞に告知を掲載するようになり、興味があれば、どなたも見学できるようになった。2019年9月15日の土地公祭では華僑の他、メディア、大学研究者など100名以上が参加した[12]。

2. 石垣島土地公祭

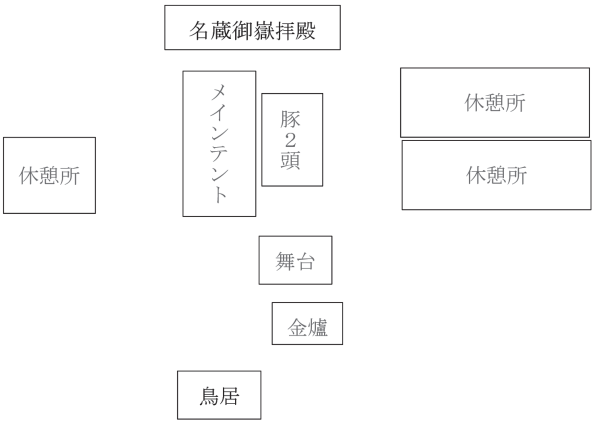
2.1 開催場所

台湾では、土地公を祀る「土地公廟[13]」があるので、土地公関係の神事は土地公廟で行う。一方、石垣島には、常設の土地公廟がない[14]ため、土地公祭の時だけ、地元の拝所名蔵御嶽を借りて執り行う。

拝殿の前に、土地公を鎮座させて、供物を供えるためのメインテント１張り、メインテントの隣に、豚２頭を供えるためのテント１張り、また、拝殿両側の空き地に休憩所としてテント３張りに、メインテントの前に、奉納演舞用の舞台が設営された。

また、供物に、燃やして供える「金紙（ｷﾞﾑ ﾂｳ）[15]」を燃やす場所「金爐（ｷﾞﾑ ﾛｳ）[16]」が舞台の裏、名蔵御嶽参道近くの空き地に設けてある。位置関係は以下の通り。

◆「土地公祭」式典関係図



2.2 開催時期

年に一度の土地公祭は、近年旧暦８月15日台湾の「中秋節」に合わせて、直前の日曜日に挙行する習わしである。

台湾からの農業移民が石垣島に移住した当時、名蔵集落と嵩田集落に居住していたが、その後、集落から離れ、石垣市内、離島、沖縄本島などに移り住む人々が多くなったため、土地公祭が神事であることもあって、元台湾出身者が集まる日にもなった。

土地公祭は正午の11時から１時まで約２時間の神事であるが、名蔵御嶽に場所を借りるため、関係者は当日の朝９時頃から場所の設営から、午後２時半頃の完全撤収し、現場回復するまで動き回る。テーブル運びやテントの設営などは重労働であるため、運営はほぼ男性を中心にして動くが、参拝者全体からみれば、女性の数の方が多かった。

一方、台湾では、中秋節だけではなく、節目に当たるお正月、土地公の誕生日[17]、旧盆[18]、及び旧暦毎月１日、15日[19]又は２日、16日[20]に合わせて土地公廟に参拝する習慣がある。盛大な神事を執り行われるのは主に土地公の誕生日、旧盆と中秋節である。

2.3 供物

主催者より「豬公（ﾃﾞｨｺﾞﾝ）[21]」２頭、「12碗（ﾂｧｯﾌﾟｼﾞｨﾜﾝ）[22]」、「牲禮（ｼﾝ ﾚｲ）[23]」、「紅片龜（ﾎﾝ ﾍﾟﾝｸﾞ）[24]」、ごはん、お酒などを用意した。参拝者より「牲禮」、「紅片龜」、お酒、お茶の他、粽、チャーシューまんじゅう、お菓子、果物などがお供えされた。

供物の種類及び品数については、先人の習わしに従ったものの、特別な意味の有無については詳しくない、と「爐主（ﾛｳ ｽﾞｳ）[25]」が語っていた。また、「12碗」の内容に関しては、「できれば長持ちできる乾物を中心にかき集めてきたものである。12個のお椀を置くのは昔からの習わしであるが、お椀の中身については、特にルールはない」という。

2019年の供物について、土地公祭の式次第に合わせてみる必要があるので、詳細は式次第の後に回す。

2.4 台湾式参拝の基本手順

まず、台湾式参拝「拜拜（ﾊﾞｲ ﾊﾞｲ）[26]」の基本手順として、まずは、お線香をあげる「燒香（ｼｮｳ ﾋｭﾝ）[27]」、それから金紙を燃やす「燒金（ｼｮｳ ｷﾞﾑ）[28]」、最後はグラスに供えたお酒を撒く「焰錢（ｶﾞﾝｼﾞﾝ）[29]」である。

供物を整えてから、参拝者全員がお線香をあげる。お線香を手に持ち、神様に向かって１回または３回拝んでから、左手[30]で香炉にお線香を立てる。参拝する時に、神様に自らの名前、生年月日、住所などの個人情報を心の中で述べながら参拝するのが習わしである。

お線香が半分程[31]の長さに燃焼したら、金紙を燃やして供え、最後、供えたグラスのお酒を１つ手に取り、円を描くように金爐の周りにグラスの中のお酒を全部撒いて、金紙を供える儀式「燒金」が終了する。

「燒金」の終わりは、祭事が終了することを示すので、神様の前に、再度手を合わせて、一礼してから、後片付けに入る。

2.5 土地公祭の式次第

①「拜天公（ﾊﾞｲ ﾃｨﾝ ｺﾞﾝ）[32]」天の神様を祀る（奉納演舞が開始する）

②「拜土地公（ﾊﾞｲﾄﾃﾞｨ ｺﾞﾝ）」土地公を祀る（軽食の焼きビーフンを参加者全員に振る舞う）

③「擲筊（ﾌﾞｯ ﾌﾞｪ）[33]」次年度の爐主を選出する

基本手順及び式次第としては、石垣島の土地公祭

は台湾と同じである。上記の式次第からも分かるように、天公から土地公へと順番に祀る。

まず、天公を祀るため、香炉及び供物の豬公２頭を外[34]に向けて置く、参拝者がお線香を手に持ち、天に向かって１回または３回参拝してから、お線香を香炉に立てる。参加者全員がお線香をあげてから、約30分後に金紙をお供えし、お酒を撒いてから、「拜天公」の儀式が終わる。

続いて、土地公祭の本番である「拜土地公」の儀式に入る。香炉をメインテントの奥に鎮座する土地公の前に移し、供物の豬公２頭も180度回転して、頭を土地公の方向に向かわせて、参拝者全員でお線香をあげ、金紙を供え、最後にお酒を金爐の周りに撒いてお供えし、「拜土地公」の儀式が終わる。

2.6 奉納演舞

台湾ではお祭りの時に「歌仔戲（ｸﾞﾜ ｱ ﾋｲ）[35]」または「布袋戲（ﾎﾞｳﾃﾞｪ ﾋｲ）[36]」を神様に奉納するが、2019年の石垣島土地公祭では、「拜天公」の時に、八重山民踊が始まり、中盤に島唄やアフリカ太鼓の演出、最後は歌を奉納したい方がカラオケで神様に奉納するという流れであった。

主催者によると、石垣島土地公祭は八重山の文化が融合された台湾のお祭りであるため、華僑に限らず、より多くの方に知ってもらうため、自由に見学、参加ができる。よって、アフリカの民族楽器の演奏や現地の方々のカラオケ奉納が成り立った。

3. 供物についての調査結果

供物とはいえ、台湾でも民族[37]または、生活地域によって異なる場合がある。例え同じ台湾語話者家庭でも軍属村に住むか、または台湾語話者の居住地域に住むかによって、習慣が異なる。石垣島の農業移民は、戦前台湾中部の「員林（ｸﾞｧﾝ ﾘﾑ）」及び周辺地域出身の台湾語話者であるため、筆者が石垣島で現地取材を重ねた上、2018年に彼らの出身地である台湾中部地方の現地調査を経て、初代移民[38]の話を考察した限り、台湾の一般的な台湾語話者家庭で用いる供物と対照できると判断したので、まず台湾で用いる供物について確認してから、石垣島土地公祭の供物を考察するという流れで紹介する。

3.1 台湾での供物

台湾では、神様への供物について、時期を問わず、共通点は以下の通りである。

３種類の生き物「牲禮（ｼﾝ ﾚｲ）」と四季の果物「四果（ｽｩ ｺﾞ）」を合わせて、台湾語では、これを「三牲四果（ｻﾑ ｼﾝ ｽｩ ｺﾞ）」といい、最も一般的な供物である。また、お菓子類や缶詰めなどを供える人もいる。特に、台湾では「土地公は甘いもの好き」という言い伝えがあるので、土地公を祀る時、台湾の伝統菓子、洋菓子、和菓子を問わず、必ず甘いものを用意する。

また、「三牲四果」以外の供物に関して、特にしなければならないルールはないが、縁起の悪いものや語呂合わせがよくないものはお供えとしては使わないという暗黙のルールがある。

①「牲禮」について

鶏を丸ごと１羽、魚を尾頭付き１尾、豚肉は皮付きの三枚肉１本の組み合わせを「牲禮」という。鶏のことを台湾語で「ｸﾞｪ」または「ｹﾞｪ」といい、「家（ｹﾞｪ）」の発音と似ているので、頭から足先まで丸ごと揃わないと、「家が壊れる、破綻する」のと同義で、縁起が悪いとされる。また、調理法は皮を破れないように茹でるのが一般的である。供える時、鶏の頭を神様の方向に向くように、所定の形を整えて盛り付ける。

それから、魚も尾頭付きで、丸ごと１尾を供える必要がある。また、供物の魚は、１尾丸ごと唐揚げにするのが一般的である。供える時は、頭を神様の方に盛り付ける。頭と尾鰭の形がはっきり分からない鰻や田鰻は用いられない。一方、昔から色鮮やかで魚体が大きい鯛やイトヨリ鯛は縁起の良い魚として好まれている。

最後は、皮付き三枚肉の豚肉を首尾が分かるように、やや大きめに切った方を頭に当てて、長方形に整える。調理法は鶏と同じく、形を崩さないように茹でて供える。盛り付け方法としては鶏と魚と一緒に、頭を神様の方に揃えて供えるのは礼儀である。

神様への供物は完全に火を通さない方が良いという人もいるが、高温多湿の台湾では、「牲禮」を長時間に渡って室外、または日差しの下に置いては、食品の安全性に欠けるので、筆者の台北の実家では完全に火を通してから土地公廟に持って行っている。また、台湾中部、南部に現地調査を行った時に、調査協力者が半生で供える家庭はいないとも語った。

②果物類について

供物として相応しくない典型的な例はトマト[39]である。台湾語では、トマトのことを「臭柿仔（ﾂｧｳ ｷｱ）」という。「臭（ﾂｧｳ）」は、臭い、青臭い。「柿仔（ｷｱ）」は柿である。トマトの形は柿に似ているので、トマトの名前は台湾語では「青臭い柿」になる。すなわち、「臭い」果物はお供えとしてはふさわしくないため、供物としては使わないのである。

一方、歓迎される供物の代表格はパイナップルであ

る。台湾語でパイナップルは「旺來（ㄨㄤˊㄌㄞˊ）」という。「旺（ㄨㄤˊ）」は、繁栄、繁盛の発音と同じ、「來（ㄌㄞˊ）」は来るという意味である。すなわち、パイナップルの発音から、「繁栄、繁盛をもたらす」と読み取れる。子孫繁栄、商売繁盛などと連想できるので、縁起のよい供物として歓迎される。また、子孫繁栄と同じ発想から１房が多く実るバナナ、葡萄、枝１本で多くの実がつくライチ、竜眼、それから、赤くて丸い形でよい香りがするリンゴも縁起のよい供物としてよく見かけられる。

3.2 2019 年土地公祭の供物を調べる

筆者が 2019 年土地公祭当日で撮った写真を基に、同年の供物を記録した。１皿ごとの内容、また１セットの内容を「・」内で示す。様々な角度からの写真で記録したが、写真では記録しきれない内容もあるので、確認できる限りの内容を下記の通り記してある。

3.2.1「拝天公」の供物（置く向きは、最初から天公の方向に置かれている）

3.2.1.1「豬公」２頭

①頭から尻尾まで形が整え、体型がほぼ同じのオス豚が専用棚に置かれている。

②内臓一式及び生き血を揃えて、専用棚の下に置かれている。

③２頭の豬公には、それぞれの口にオレンジ１つを噛ませて、それぞれのオレンジにお線香が立ててある。

3.2.1.2 メインテーブル（向きは、天公の方向に置かれている）

①香[40] ５袋、金紙（「天公金（ﾃｨﾝｺﾞﾝｷﾞﾑ）」、「壽金（ｼｭｳｷﾞﾑ）」、「刈金（ｸﾞﾜｷﾞﾑ）」、「福金（ﾎｯｷﾞﾑ）」[41]）が大量に重ねられている。

②酒１本、グラス３つ。

③地酒「八重泉」一升瓶２本。

④ 12 碗（落花生、とろろ昆布、春雨、煮干し、干し椎茸、切り昆布、黒豆、木耳、干瓢、ひじき、蓮の実、スルメイカ）。

⑤ごはんをホーロー鍋ごとに、使い捨ての茶碗と箸と一緒にメインテーブルの下に置いてある小さな木の椅子の上に置かれている。

3.2.1.3 その他のテーブル

①外から最前列右

・バナナ３房。

・小袋に分けたお米約 30 袋[42]。

・牲禮。

②外から最前列左

・バナナ２房。

・島バナナ１房、マスカット葡萄１房、梨２種類各２つ、キウイ２つ、桃１つ。

③外から最前列中央

・バナナ１房、葡萄１房、メロン１つ、リンゴ２つ、桃２つ。

④外から２列目

・「綠豆椪（ﾘｪｯﾀﾞｵﾎﾟﾝ）[43]」１箱。

・バナナ１房、葡萄１房、メロン１つ、桃２つ、リンゴ２つ、キウイ２つ。

・東京ばななゴーフレット１箱。

・紅片龜約 10 個。

・日本橋長兵衛最中１箱（筆者持参）。

⑤外から３列目

・チャーシューまんじゅう約 15 個。

・牲禮。

・「綠豆糕（ﾘｪｯﾀﾞｵｺﾞｳ）[44]」１箱。

・香１袋。

3.2.2 土地公の方向に置いてある供物

①土地公の前１列目

・弓月[45] の蜂蜜カステラ中型１棹

・多宇モチ屋[46] の「あんモチ」10 個入り、２パック。

・香１袋、「守札紙銭[47]（しゅれいかびじん）」大量。

・バナナ１房、文旦２つ、リンゴ１つ、梨１つ、「釋迦（ｼｪｯｷｬ）[48]」１つ。

・バナナ１房、葡萄１房、文旦２つ、リンゴ３つ、梨３つ。

・バナナ１房、葡萄１房、文旦２つ、梨（数不明）。

・お酒１本、湯飲み３つ（真ん中に焼酎、両側にお茶が注がれてある）。

・お酒１本、湯飲み３つ（真ん中に焼酎、両側にお茶が注がれてある）。

②土地公の前２列目右

・弓月の蜂蜜カステラ中型１棹。

・多宇モチ屋の「あんモチ」約 12 個。

・香１袋、「守礼紙銭」20 束程度。

・バナナ１房、文旦２つ、リンゴ２つ、梨３つ、釋迦１つ。

・お酒１本、湯飲み３つ（中身はお酒）。

③土地公の前２列目左

・弓月の蜂蜜カステラ中型１棹。

・多宇モチ屋の「あんモチ」10 個入り、２パック。

・台湾のパイナップルパイ「鳳梨酥（ㄨㄥ ㄌㄧˊ ㄙㄨ）」１箱。

・和菓子ミックス１箱。

・粽（中身は不明）３つ。

・葡萄１房、文旦１つ、リンゴ２つ、梨３つ、オレンジ２つ。
・バナナ１房、島バナナ１房、リンゴ５つ、キウイ２つ、オレンジ２つ、梨１つ、ドラゴンフルーツ１つ。

④土地公の前３列目右
・台湾中秋節のお菓子「蛋黄酥[49]」１箱。
・台湾のお菓子「花生酥[50]」２パック。
・お茶３杯。
・マドレーヌなど石垣島の洋菓子約 10 個。

⑤土地公の前３列目左
・お茶碗３つに、それぞれ乾燥春雨が置かれている。
・お酒１本とグラス３つ（中身はお酒）。
・牲禮。
・紅片龜約 10 個。
・蛋黄酥１箱。
・バナナ１房、ドラゴンフルーツ３つ、グアバ１つ、リンゴ１つ、スイカ１つ。
・金紙（刈金、福金）少量。

⑥土地公の前４列目左
・「元寶（ｸﾞﾜﾝﾎﾞｰ）[51]」大量。
・金紙（福金）少量。
・「守礼紙銭」10 束。
・デラウェア葡萄１パック　など。

4. 考察

4.1 石垣島「土地公祭」についての考察

中秋節頃に行う「石垣島土地公祭」は石垣島の華僑社会における独特の信仰活動だろうか。確かに日本で「土地公祭」がお祭りとして知られているのは、石垣島の台湾系華僑社会のそれであるが、一方、中秋節に土地公を祀ることについては、関連資料には以下のような記載もある。

①台湾政府の国家文化情報システム「台灣大百科全書（台湾百科事典）」[52]によると、

（原文）

民間將中秋視為土地公生日，在這一天信徒會備辦月餅、牲禮、酒果等到附近的土地公祠祝壽，答謝今年的神恩，也祈求明年持續護佑，此時敬神必定請戲，中秋成為民間戲曲演出活動頻繁的高峰期。

（訳文）

民間では、中秋節の日を土地公の誕生日としてみなしている。この日に、信者は月餅、牲禮、酒と果物などを用意して、近所の土地公を祀る祠に行き、土地公の誕生日祝いを行う。過去一年間のご加護に感謝しながら、これからの一年間のご加護を願う。この日は必ず演劇を奉納するので、中秋節の時期は、民間の演劇関係者にとっては、年に一番の書入れ時となる。

②台湾の国立台中教育大学台湾語学科副教授林茂賢氏が「台灣民俗文化工作室[53]- 鄉土的守護神土地公篇」での説明によると

（原文）

台灣中秋節是「土地公誕辰」, 台灣民間祭祀土地公, 分別在農曆二月初與八月十五 , 應是源自土地公原為古代「社神」（土地之神）崇拜 , 社祭分為「春祈、秋報」, 因此土地公也有兩次生日。

（訳文）

台湾の中秋節は「土地公の誕生日」である。台湾人が土地公を祀る時期は、旧暦２月初めと旧暦８月 15 日の２回である。それは、土地公を古代の「社神」（土地の神様）として崇拝してきたからであり、土地の神様を祀るのは「春季例祭、秋季例祭」にそれぞれ行われることから、土地公の誕生日祝いも１年に２回となるわけである。

上記のことから分かるように、台湾で土地公を祀るのは、旧暦２月２日の土地公の誕生日と旧暦８月 15 日中秋節の年２回で、中秋節は土地公誕生日の他に、豊作へのお礼としての神事でもあるなど。祀る理由は諸説あるが、旧暦８月 15 日に土地公を祀るのは石垣島の台湾系華僑社会独自の信仰文化でないことだけは確かである。

4.2 土地公祭の供物について考察する

4.2.1 位の順に供える

上記のように、供物は最初から天公の方向に置いてあるものがあれば、最初から土地公の方向に置く供物もある。上記二の５の参拝の基本手順で紹介したように、天公は神格が一番高い神様であるため、神事の際は、必ず天公を祀ることから始まる。天公を祀る儀式を終えてから、供物の向きをかえて、土地公を祀る習わしである。すなわち、同じ供物を位の高い順から低い順へと順番に祀っていくのである。

お線香、金紙及びグラスに注いだお酒は１度きりの消耗品であるため、土地公を祀る時に、参拝者全員が改めて線香をあげて、お酒を用意した参拝者はグラスに新たにお酒を注ぎ、最後は土地公に供えるための金紙を燃やして供える。

4.2.2 台湾と石垣島に共通する供物

①豬公
②牲禮
③果物

④お酒

⑤甘いもの　紅片龜、綠豆糕、蛋黃酥、鳳梨酥など台湾のお菓子と日本のお菓子

⑥お線香と金紙　天公金、壽金、刈金、福金がある

上記項目については､台湾と石垣島は共通している。ただし、①の豬公のお供えは共通するが、異なる部分が大いにあるので、詳細は以下の 2.4 で述べることとする。

また、③の果物を供える数について注目したい。台湾では、普段、偶数は円満の証に対して、お供えの場合、奇数個を供えるのが一般的で、台湾語では「豎單(ㄎㄚ ㄉㄢ)[54]」という。それは、昔から奇数は「陽」の数字で、偶数は「陰」の数字と言われていることからきている。すなわち、台湾では数字の使い方に関しては、普段及び慶事[55]に使う場合と、神仏にまつわる祀り事の際に分けて考える。日本の数字に対する感覚とは異なるが、結論からみると、供物の場合、良いこと（神事）は奇数という点について、日本と台湾は微妙に合致している。一方、三の 2 で記録したように、供物の果物の数及び種類からみると、奇数と偶数が同時に存在していたので、恐らく、石垣島では、供物の種類及び数に関しては特に拘っていないことがみてとれる。

4.2.3 石垣島独特の供物

①「守礼紙銭」

これは沖縄で、清明節や旧盆の時に、先祖に供える、先祖があの世で使うお金のことである。

②「元寶」

台湾では先祖をはじめ、陰の神様[56]、仏様[57]に供え、あの世で使うお金のことである。

③チャーシューまんじゅう

香港の広東料理として、主に戦後台湾に伝えられてきた食文化であるが、台湾の神事の供物としてあまり見たことはない。また、台湾中部地方の調査協力者にも使わないという。一方、台湾では外見が似たような旧盆行事の伝統米菓子に「毛呼 (ㄇㄛ)[58]」がある。「毛呼」の代用品として考えられる。

④お酒とお茶を一緒に供える（酒・茶・酒の組み合わせ）

台湾は、お酒またはお茶のどちらか１種類を供えるのは一般的である。すなわち、同じものを３杯供えるのである。

⑤メインテーブルの下に供えるご飯と茶碗、お箸の食器セット

台湾では、ご飯と食器セットはテーブルの上に供えるのが一般的である。低い椅子に乗せてお供えするのは、旧盆の祀りに、仏様のために用意した清めの水と新品のタオルだけである。

⑥乾物のみの「12 碗」

台湾ではご飯と料理を盛り付けるのが一般である。

⑦乾燥春雨だけが置かれているお茶碗３つ

持ち主に確認できなかったが、恐らく「汁もの」または「主食」のつもりだと考えられる。

⑧山盛りのバナナ及び各種のフルーツ

曾て石垣島の青果市場は台湾系華僑が仕切っていたといわれるが、今でも多くの台湾系華僑が青果市場の仕入れを担当しているため、日本各地からのフルーツのみならず、台湾のフルーツも充実している。

4.2.4 石垣島独特の供物の考察

考察可能な項目は以下の４項目である。その他の項目について、今回、上記の説明以上の可能性を見いだせないので、考察可能な項目についてのみ考察することとした。

① 12 碗

台湾で 12 碗といえば、ご飯と料理を 12 個の茶碗に盛り付けて供えることである。仏様向けの 12 碗なら、故人が生前好んだ料理を盛り付けるのは一般的である。また、近年では、高温多湿の台湾の気候を考えて、夏場は保存が効く料理や乾物を選ぶこともある。

石垣島の 12 碗について、2019 年の爐主及び華僑総会の幹部に尋ねたところ、先輩方から言われた通りに供えただけで、12 碗の意味及び供物の内容について特に説明されていなかったので、毎年 12 碗を用意するのに大変だったので、現在の 12 碗は、乾物など保存が効くものを選んでいるという説明であった。

つまり、12 碗について台湾と石垣島の共通点は、どちらも現在では乾物など保存が効くものを優先的に選ぶことである。恐らく、台湾と石垣島の地理的条件が近い上、気候も似通っているので、ご飯と料理の 12 碗よりも、食品の安全性を重視した結果になった。どちらも時代の変遷に伴った変化と考えられる。

②豬公

上記 2.2 の共通点についても述べたように、豬公は共通項目である。一方、台湾では、神様の誕生日祝い及び大型神事の際に、豬公を供えるが、豬公の選定は子豚の段階から選び、選ばれたオスの子豚に栄養バランスの良い食事を与え、居住環境を整え、１年間かけて大事に育てていく。また、頭の黒い毛を長く伸ばし、仕上げに赤い綿の糸で束ねるのも豬公になる必須条件である。祀りの日

に合わせて、腹開きした豬公を専用の棚にかけ、内臓一式を揃え、棚の下に吊るして供える。最後に、豬公の口にミカン、またはリンゴかパイナップルを噛ませ、首に硬貨またはお札でできた首輪をかけて、供物の豬公として出来上がる。

一方、土地公祭の豬公は、執り行う日程を決めてから、養豚業者に発注すると主催者から説明された。そのため、2019年石垣島土地公祭で供えていた豬公の大きさは台湾と比べると、やや小ぶりである、恐らく6か月ほどの大きさだと推測される。頭に黒い毛と首輪の飾りはないが、内臓一式と生き血は豬公を置かれる棚の下にそれぞれパッケージされて、かごの中に入れてあった。

③守礼紙銭と元寶について

守礼紙銭は沖縄で先祖に供えるもの。元寶は台湾で先祖や仏様に供えるあの世で使うお金である。この２つの供物の共通点は先祖及び仏様への供物である。しかしながら、土地公祭は、神様の土地公を祀る神事であるのに、なぜ仏様への供物が用意されているのか､不思議と思わざるをえないが、台湾人として、これは尋ねにくい質問でもあるので、主催者に確かめることはしなかったが、按ずるに、土地の神様にその地にいる仏様へのお裾分けを託すつもりなのかもしれない。

実際、2019年土地公祭当日の会場に、昭和28年土地公祭の写真が展示されていた。写真から当時の供物がある程度確認できた。当時の供物は、山羊１頭を豚１頭の上に載せて供えていた。また、豚を置かれた棚の下に、魚１尾、鶏１羽、鴨１羽、内臓類を臓器ごとにそれぞれ吊るしていた。それから、テーブルの上には、蠟燭１対、香炉の代わりの缶詰めの缶を線香立てとして使っていた。その他、パイナップル２つ、紅片龜のようなお菓子２皿、果物１皿などがある。被写体の一部は背後に隠れていたかもしれないが、写真から判別できる限りでは、仏様への供物は見当たらなかった。つまり、昭和28年当時の供物は、より台湾の「拜土地公」に近いと考えられる。

④テーブルの下に供えてあったご飯と食器セット

テーブルの下にご飯と食器セットが置かれていることに気づき、主催者に尋ねたが、ご飯の存在を否定されたので、守礼紙銭と元寶のことも聞きにくくなった。「使わないものをテーブルの下に置いてあるだけ」との答えだった。一方、夕食の時に、「供え物の白いご飯」が出されたので、様々な推測が頭に浮かんだ。

このご飯セットについては、以下３つの観点から推測できる。まず、（ⅰ）台湾では白いご飯セットを供物として用意するのは、主に先祖、仏様を祀るときである。また、（ⅱ）別途に小さな椅子に乗せて供えるのは、旧盆の時に、仏様に手と顔を清めるための水と新品のタオルを用意するのと同じである。最後、（ⅲ）テーブルの下に置いてある点から考えられるのは、虎爺への供物である。一方、台湾では虎爺に牲禮、卵、またはヤクルト[59]を供えるのは一般的であるので、ご飯セットは虎爺のためではないと考えられる。また、上記2.4③守礼紙銭と元寶が供えられる点に加え、（ⅱ）別途に小さな椅子で用意された点からみると、このご飯セットは恐らく仏様への供物だと考えられる。

台湾では特に仏様関係について、畏敬のあまり、多く語らない暗黙のルールがある。特に先祖以外の仏様を台湾語では「好兄弟（ホウ ヒャン ディ）」、つまり、「仲良し兄弟」と敬意を払って称している。祀る際に余計な口を挟まないなど､タブーが多い。上記の推測に正解があるや否や定かではないが、現時点では、これ以上聞き出せないので、残念ながら、あくまでも推測の域を脱することができないのである。

4.2.5 名蔵御嶽の神々へ

名蔵御嶽の拝殿奥の中央に、果物セットと「あんモチ」１皿が用意されて、主催者が台湾のお線香を立てている。土地公祭の間、参拝者が続々と供物が設置された場所及び拝殿左右両側の神様に手を合わせて、参拝していた。名蔵御嶽に参拝するのは、土地公祭の儀式ではないが、場所借りのお礼及び地元の神様に対する感謝の気持の現れだと考えられる。

この石垣島の神様に台湾式の参拝方法という参拝スタイルは正しく、石垣島と台湾文化の融合の証であると言える。

5. 終わりに

台北出身の筆者が2019年石垣島土地公祭に参加し、土地公祭の日程、儀式、供物などを概観してみたが、石垣島土地公祭の日程は、台湾の土地公廟で行う中秋節祝いとほぼ同じであり、供物は旧盆の要素が入っている。一方、以下の点から、石垣島独特な要素が混在する神事であると言えることが見て取れた。その１、供物の品数及び種類の数について、特に数字に拘泥しないところは、石垣島の独特な作法である。その２、品物は異なるが、同じ「あの世で使うお金」という性質を持つ台湾の元寶と沖縄の守礼紙銭が、土地公祭の供物として同じテーブルに並ぶのは石垣島土地公祭の

特徴と言える。その３、奉納演舞について、石垣島では、歌仔戯も布袋戯も用意できないため、現地の民踊や国際色豊かな演奏会に、地元の方と一緒に楽しめるカラオケを奉納するのは合理的である。その４、名蔵御嶽の神々への参拝は、台湾の参拝方法で祀るのも石垣島土地公祭の特徴だと考えられる。

上記の１と２について、台湾の陰と陽の概念の混同として見受けられるので、台湾の習わしではない。また、３と４は、台湾と石垣島の文化の融合である。つまり、石垣島土地公祭は、間違いなく「台湾系華僑社会の神事」と言えるだろう。一方、「郷に入っては郷に従え」の俚諺があるように、台湾の中秋節の「拜土地公」行事とはやや異なるし、沖縄の信仰活動ともシンクロしているとは言えない。ましてや、先祖崇拝や信仰を禁じる中国とも異なるので、厳密にいうならば、中華圏の信仰活動とは言えないものである。

また、昭和 28 年の土地公祭記録写真から見ると、石垣島土地公祭における供物は大きく変容を遂げていることが分かる。少なくとも、当時の写真からは仏様関係の供物は確認できなかった。供物における大きな変化と同様に、現在、この自由に見学、参加できる石垣島土地公祭について、今後台湾系華僑社会の信仰活動として守られていくのか、それとも、元台湾出身者及び彼らの子孫が華僑社会離れによって観光イベントの一環として祭りを存続させていくのか、まだ確かなことは分からないが、石垣島土地公祭を開催、参加すること自体は、台湾関係者のアイデンティティの証でもあることから、その行方に大いに関心を持っている。

最後、長い間名蔵御嶽で執り行ってきた土地公祭だが、名蔵拝所の近くに、台湾出身者が自ら土地公廟を建立し、2021 年から土地公祭はこの土地公廟で行う予定と琉球華僑総会八重山支部玉木会長からの知らせが届いた。すなわち、名蔵御嶽を間借りした土地公祭が 2020 年を以て最後となり、2021 年から新たな土地公祭の幕開けとみなせる。土地公廟を建立することは、台湾出身者が自らのアイデンティティの再確認として見受けられる。現地色と台湾要素が混在する石垣島土地公祭だが、今後台湾色が一層強く出るか否やなどについてさらなる考察及び調査を行いたい。

◆写真資料

2019 年石垣島土地公祭における供物に関する写真と共に、2005 年台北市内の土地公廟「植福宮」にて執り行われる旧盆行事の写真と対照してみた。台北市の旧盆行事の写真に写っている供物だけをみている限り、正しく盛大版の石垣島土地公祭の供物として見受けられる。そのため、2019 年石垣島土地公祭ではじめて供物をみた瞬間、「神様祀るのに、なぜ仏様の供物が置かれている」と疑問が浮かび、本稿の考察に結び付いたわけである。掲載する写真は筆者が自ら撮影したものである。

１．石垣島土地公祭－ 2019 年 9 月 15 日石垣島名蔵御嶽にて

写真①供物の数々



写真②元寶（あの世で使うお金）



写真③石垣島土地公祭の「豬公」



写真④ごはんと食器セット



2．2005 年 8 月 22 日台北市内の土地公廟「植福宮」での旧盆行事（仏様のための祀り）

写真⑤土地公廟前に供物の数々



写真⑥「豬公」



写真⑦「蓮花金（ﾚﾝﾎｴｷﾞﾑ）」（仏様があの世で使うお金）



◆参考文献

１．現地メディア報道

「改築の名蔵御嶽で土地公祭」やいまタイム 2019/9/15　https://yaimatime.com/yaimanews/81392/（最終閲覧日 2020/12/16）

「石垣島の聖地で「豚祭り」台湾出身者や子孫、豚供え商売繁盛願う「土地公祭」」沖縄タイムズプラス 2019/10/15 https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/484662（最終閲覧日 2020/12/16）

２．書籍・論文

①日本

三木健『「八重山合衆国」の系譜』南山舎，2010

三木健『龍の舞い　八重山パイン物語』八重山台湾親善交流会，2014

森田真也「帝国日本下における人の移動と神の勧請 - 沖縄石垣島の台湾系華僑・華人の「土地公祭」をめぐって -」京都大学人文科学研究所『人文学報』第 108 号，2015/12

関礼子、高木桓一編著『多層性とダイナミズム　沖縄・石垣島の社会学』，2018（p.49-68）

②台湾

紀秀足『台灣土地公信仰探究—以嘉義市土地公廟為例』國立中正大學碩士論文，2009（p.138-150）

張瑜庭『八重山重層歷史中的台灣人』國立臺灣師範大學碩士論文，2015(p.44)

３．台湾の情報バンク

中華民國文化部「國家文化資料庫」http://nrch.culture.tw/（最終閲覧日 2020/12/16）

中華民國教育部「台灣閩南語常用詞辭典 附錄俗諺」https://twblg.dict.edu.tw/holodict_new/index/fulu_suyan_level1.jsp（最終閲覧日 2020/12/16）

中華民國內政部「全國宗教資訊網」https://religion.moi.gov.tw/Knowledge/Content?ci=2&cid=278（最終閲覧日 2020/12/16）

「國立自然科學博物館」http://edresource.nmns.edu.tw/ShowObject.aspx?id=0b81d191ae0b81f03fe3（最終閲覧日 2020/12/16）

「台灣民俗文化工作室」國立台中教育大學台灣語文學系副教授林茂賢主宰 http://www.folktw.com.tw/culture_view.php?info=55（最終閲覧日 2020/12/16）

---

[1] 1935 年台湾総督府が農業開墾隊として、台湾中部地方から 55 世代 330 人を 10 年間契約で石垣島に派遣した。1944 年第二次世界大戦の戦火が沖縄まで広がり、石垣島の住民も一旦台湾に疎開していたが、戦後、希望者が石垣島の地に戻った。（三木健『龍の舞い 八重山パイン物語』参照）

[2] 土地公の奥様である。台湾閩南語で「トディボウ」という。以下、台湾語閩南語を「中国語繁体字（台湾閩南語発音）」として表記し、台湾閩南語を「台湾語」と称す。

[3] 虎の神様である。

[4] 土地公を祀る祠のこと、つもり土地公の家である。

[5] 沖縄タイムズプラス「石垣島の聖地で「豚祭り」台湾出身者や子孫、豚供え商売繁盛願う「土地公祭」」2019/10/15

[6] 張瑜庭（2015）p.44

[7] 沖縄のウチカビとは、先祖に供えるあの世で使うお金のことである。

[8] 台湾では、お祭りの主催者が手伝う人々を労うため、お祭りの後に食事会を開催するのが習わしである。「豬公」を祀る場合、その日の食事会を「呷豬公肉（ジャディゴンバァ）」という。

[9] 昼頃の 11 時から 1 時までを「午時（ゴンシ）」という。一日中陽気が最も強い時間帯であるため、仏様関係の祀りには用いられない時間との習わしである。

[10] 台湾の農業移民が石垣島に移住した当時、全員が名蔵集落と嵩田集落に居住していた。当該 2 集落に未だに元台湾出身者と彼らの子孫が居住している。

[11] 先祖が中華圏（中国、台湾）出身で、現在は外国の国籍を有する人のことを「華僑」と称する。台湾出身の華僑を「台湾系華僑」という。

[12] やいまタイム「改築の名蔵御嶽で土地公祭」https://yaimatime.com/yaimanews/81392/

[13]「廟」は拝殿のことで、「廟（ビョウ）」という。土地公を祀る廟は「土地公廟」という。

[14] 土地公は普段「爐主（ロウズウ）」の家に 1 年間祀られる。

[15]「お金」の役割に当たる「金紙（ギムツワ）」と「銀紙（グンツワ）」がある。祀りの終盤に燃やして供える物で、金紙は神様に、銀紙は仏様に供える。

[16] 金紙を燃やす場所は「金爐（グムロウ）」といい、銀紙を燃やす場所は「銀爐（グンロウ）」という。

[17] 旧暦 2 月 2 日。

[18] 旧暦 7 月 1 日から 7 月末日まで、1 か月間の旧盆行事を「普渡（ポウド）」という。先祖以外の仏様向けの行事である。

[19] 一般人は旧暦毎月 1 日と 15 日に土地公廟へ参拝する習慣がある。

[20] 商売を営む人は旧暦毎月 2 日と 16 日に土地公を祀る習慣がある。「做牙（ゾウゲェ）」という。

[21] 神様に捧げるオス豚のことである。台湾では、「豬公」

の選抜方法及びその後の飼育環境などについて様々な拘りがある。それは、神様に敬意を払うだけではなく、命に敬意を払うとも解釈できる。

[22] 台湾には 12 個の茶碗にご飯と料理を盛り付けて先祖に供える習慣がある。また､地域によって､「豬公」を供える時にも 12 碗を用いる。それから、中秋節の時、先祖または土地公に供物として用いる場所もある。

[23] 鶏丸ごと１羽、尾頭付きの魚１尾、皮付き三枚肉１本のこと。この３品を合わせて「牲禮（ｼﾝ ﾚｲ）」という。

[24] 外側は食紅で赤く染め、長寿を意味する「亀」の形を整え、中に小豆餡入り、米粉でできたお餅のような蒸し菓子､「紅片龜（ﾎﾝ ﾍﾟﾝｸﾞ）」という。

[25] 神様（ここでは土地公のことを指す）を１年間、自宅で祀る家の家長を「爐主（ﾛｳ ｽﾞｳ）」という。土地公祭当日の斎主を務める。

[26] 神様及び仏様を祀ること全般を「拜拜（ﾊﾞｲ ﾊﾞｲ）」という。

[27] お線香をあげることを「燒香（ｼｮｳ ﾋｭﾝ）」という。

[28] 供えた金紙を燃やして供えることを「燒金（ｼｮｳ ｷﾞﾑ）」という。祀りの終盤を示す。

[29]「焰錢（ｶﾞﾝ ｼﾞﾝ）」とは、祀りの終わりを告げる、献杯と似たような役割である。

[30] 右手は穢れだからである。

[31] お線香の長さにもよるが、約 15 分から 30 分程度。言い伝えによると、この待ち時間は、神様が食事をする時間である。

[32] 天の神様。台湾では、神様の中に位が一番高いのは「天公（ﾃｨﾝ ｺﾞﾝ）」であるため､神事の時に､必ず「天公」から祀る。

[33]「擲筊」は当て字、台湾語は「ﾌﾞｳ ﾌﾞｪ」という。三日月型の木でできた「筊（ﾌﾞｪ）」２枚を手に取り、神様または仏様に伺いたい事を心の中で述べてから､最後､「筊（ﾌﾞｪ）」を床に落とす。床に落ちた「筊（ﾌﾞｪ）」の形によって、神様または仏様が尋ね事に対する可否を示す。「表・裏」は可、「表・表」また「裏・裏」は否の表しである。

[34] 室内であれば、室外の方向に向く。石垣島土地公祭は室外であるため、土地公と反対方向、すなわち参道方向が外に当たる。

[35]「歌仔戲（ｸﾞｳ ｱ ﾋｨ）」台湾オペラとも呼ばれる歌唱劇のことで、昔から伝統行事でよく用いる、台湾語で演じる。

[36]「布袋戲（ﾎﾞｳ ﾃﾞｪ ﾋｨ）」人形劇のことで、昔から伝統行事でよく用いる、台湾語で演じる。

[37] 先住民族の諸民族、客家語を話す客家人、台湾語を話す台湾人、戦後中国から移り住んだ外省人などが様々な民族がある。

[38] 爐主及び華僑総会八重山支部前会長など幹部の方々は初代移民である。

[39] 台湾では果物に分類する。

[40] 持ち手がついてある、神様または仏様に供える長い台湾のお線香である。

[41]「天公金、壽金、刈金、福金」は異なる種類の金紙である。左で示した天公金からは寸法の大きい順からの並べ方である。寸法が大きい方は、位の高い神様への供物であるため、供える時も寸法の大きい方から順に燃やして供えるルールである。

[42] 台湾では、神事に参加できない方のため、お米を小袋に分けてお裾分けに便利なパッケージである。廟または主催者が用意するのは一般的である。

[43] 台湾の伝統菓子､「綠豆椪（ﾘｪｯ ﾀﾞｵ ﾎﾟﾝ）」といい、白あんの焼き菓子である。

[44] 台湾の伝統菓子､「綠豆糕（ﾘｪｯ ﾀﾞｵ ｺﾞｳ）」といい、小豆餡入り、緑豆と米粉、ごま油でできた、日本の落雁に似たお菓子である。

[45] 石垣島で有名な老舗菓子屋。島の住民が普段はもちろん、伝統行事の際によく用いる店。

[46] 弓月と同じく石垣島の老舗菓子屋で、島の住民が普段はもちろん、伝統行事の際によく用いる店。

[47]「守礼紙銭（しゅれいかびじん）」沖縄では先祖があの世でお金に困らないようにと、清明祭やお盆などに燃やして供える､あの世で使うお金のことである。台湾の「銀紙」と同じ役割である。

[48] 沖縄ではアテモヤ､台湾は「釋迦（ｼｪｯ ｷｬ）」という。お釈迦様の頭のような形をする果物。

[49]「蛋黃酥」は中国語繁体字表記のみで、塩漬けした家鴨の卵黄を入れたお菓子。

[50]「花生糖」は中国語繁体字表記のみで、落花生糖である。

[51] 台湾では､「銀紙」と同じ役割で、仏様への供物。

[52] 台湾の科学文部省に当たる政府行政機関が編集、管理を行う台湾関連の百科辞書サイド。

[53] 国立台中教育大学台湾語学科副教授林茂賢氏が主宰する、台湾の民間信仰活動、慣習にまつわる専門サイド。

[54]「豎單（ｷｬ ﾀﾞﾝ）」､「豎單」は当て字、単数を選ぶという意味を表す。

[55] 普段使い及び慶事の場合とは、つまり人間に使う場合である。

[56] 神格化されていない一般人が様々な理由で、亡くなった後に、神として人々に崇拝されるのを、陰の神に分類する。

[57] 台湾では故人を大きく先祖（うち）と先祖以外（そと）に分類し、祀る方法と時期も異なるため、ここでは台湾の先祖以外のことを「仏様」と記す。

[58]「毛呼（ㄇㄏㄨ）」とは、チャーシューまんじゅうの形をして、具なしの中華まんじゅうのような蒸しパンである。「毛呼龜粿粽，紅包隨汝送」という台湾語の諺があるように、旧盆行事に「毛呼（ㄇㄏㄨ）、龜（ㄍㄧ）、粿（ㄍㄜˇ）、粽（ㄗㄨㄥˋ）」４大米菓子を用意する必要がある。そのため、旧盆行事期間以外には、入手しにくいものでもある。

[59] 虎爺は子供を守る神様として信仰する人々がいるので、子供が好きなヤクルトを供える人もいる。